

**【第245号 紙面案内】**

第2面 ……………平成18年度年次総会案内

第4・5面 ……第55回全国研究大会プログラム

第7面 ……………第10回産学交流シンポジウム開催案内

## 中部部会で、第10回産学交流シンポジウム開催

中部部会長 辻村宏和（中部大学）

来たる7月21日(土)に中部部会で産学交流シンポジウム（中部大学名古屋キャンパス…詳細はp.7）を開催する。中部部会での開催は実に5年ぶり（第4回「激動の時代における経営者の能力とその育成」2002年11月、愛知県産業貿易館）となる。テーマは「MBA談義～ホルダー、ボス、トレーナー～」で、そのコンセプトは、「MBAホルダー（経営系大学院修了者）」が語る、また「彼らを部下に持つ上司」が語る、そして「彼らを輩出する教育機関」が語る「MBAとは?」「経営教育とは?」とした。

MBAとの関わり方が異なる三者からそれぞれ基調講演をしていただき、シンポジウムに突入する。中部部会員諸氏の労で社団法人中部産業連盟の後援も取り付けることができ、さらにシンポジウムのパネリストも豪華なキャスティングとなった。ゲスト・スピーカー2人を含むパネリスト御三方はそれぞれ、真塩敏幸氏（トヨタ自動車）、多田利行氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）、小川英次氏（名古屋大学名誉教授・中京大学前学長）で、御三方のアンサンブルに聴衆者の期待値も高まろう。三者の所属や教育機関を同一にしなかったのは議論を活発にさせるためでもある。ホルダーにはMBA取得による“自己変身”について、ボスにはMBAホルダー“使用前・使用後”について、トレーナーには“品質改良度合い”について大いに論じてもらうつもりだ。そのためにも、シンポジウムのディスカッション・トーンは“雑談調のぶっちゃけトーク”としたい。

非会員の参加も期待できそうだ。しかしながら中部部会長を拝命して間もなくシンポジウムの開催を促されたことは正直しんどい、というのが偽らざる気持ちである。櫻井克彦（中京大学）・前部会長のお導きを賜り、また堀田友三郎（東海学園大学）・副部会長、草田清章（愛知産業大学）・幹事の協力をいただき、何とかここまでこぎつけた。かくなる上は、学会活性化の一助となるべく、中部以外の各地域からも大勢の参加を希望してやまない。

## 第4回常任理事会報告

平成19年4月14日(土)、駒沢大学、会館246 6の2教室にて、第4回常任理事会が開催されました。以下、審議の結果を報告します。

### (1)平成19年度全国研究大会について

第56回全国研究大会は高松大学において平成19年11月22日～24日に開催することが決定された。

### (2)機関誌のジャーナル化について

機関誌委員長より「機関誌のジャーナル化計画」(素案)について報告があり、今後、機関誌委員会での検討を踏まえ常任理事会で整理することになった。

### (3)山城賞について

若手研究者による研究論文を対象とした山城賞奨励賞の設置が了承された。

### (4)会員の入退会について

会員の入退会について、新たに9名の入会申し込みと18名の退会の申し出があり、それぞれ承認された。本常任理事会承認分を併せて、個人会員829名、法人会員9社となった(平成19年4月14日現在)。

### (5)その他

総務委員長より以下の報告がなされた。

- ①名簿作成の進捗状況について
- ②経営関連学会協議会への協力について
- ③19年度予算案の作成について
- ④自然退会者について
- ⑤特別プロジェクトについて

プロジェクトの全国大会における発表義務について点検を行い次回常任理事会で検討する。

## 平成18年度年次総会のご案内

初春の候会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

下記の要領にて平成19年度年次総会を開催いたしますので、ご出席下さいますようお願い申し上げます。総会を欠席される場合は、必ず委任状を送付するようお願いいたします。

### 記

1. 期 日 平成19年6月30日(土)
2. 時 間 9:40～10:20
3. 会 場 青山学院大学 ガウチャー・メモリアル・ホール
4. 議 題 (1)平成18年度活動報告並びに収支決算の件  
(2)平成19年度活動報告並びに収支決算の件  
(3)その他

以 上

## 平成18年度第2回中部部会報告

草田 清章（愛知産業大学短期大学）

平成19年3月3日(土)14時より、第35回中部部会が愛知産業大学名古屋サテライトで21名の参加者を得て開催された。

第一報告は、高綱睦美氏（愛知産業大学）による「大学におけるキャリア教育の意義と役割 ―学校教育におけるキャリア教育との関連から―」、司会・コメンテーターは、草田清章（愛知産業大学短期大学）であった。高綱氏は、大学におけるキャリア教育の必要性について、事例を交えつつ詳細に報告され、キャリア教育実践上の留意点として、日々の講義における教員間でのキャリア教育に対する認識の共有が不可欠であること、また、現在の学習と社会、社会と自己との関わりに気づかせるような教育的配慮が必要であることを報告された。

第二報告は、増田茂樹氏（愛知産業大学）による「経営財務本質論 ―もう一つの経営職能構造論―」、司会・コメンテーターは、辻村宏和氏（中部大学）であった。増田氏は、「財務とは何か」に対する50有余年の研究成果としての著書である『経営財務本質論』（文眞堂）より、企業における財務という主体的な職能を「主体の論理」で観るとき、財務とは、「費用・収益適合」職能ではなく、「収・支適合」職能である。財務とは、従属するものでもなければ君臨するものでもない、財務とは主体性をもった一職能として企業において存在していることを報告された。

それぞれの報告終了後には活発な質疑応答がなされた。引き続き、辻村部会長を議長として次回開催校、中部部会主催産学交流シンポジウム（平成19年7月21日(土)於 中部大学名古屋キャンパス）などの連絡がなされた。

報告会終了後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中、会員間の交流が深められた。

◆平成19年度第1回の中中部部会報告会は、平成19年11月10日(土)に、中部大学名古屋キャンパスで開催の予定です。

なお、中部部会事務局では随時報告募集を行っております。報告を希望される方は、

草田清章（愛知産業大学名古屋サテライト 名古屋市熱田区金山1-6-9

TEL:052-683-0021 e-mail:kusada@asu.ac.jp) までお知らせください。

## 日本経営教育学会第55回全国研究大会プログラム 統一論題「プロフェッショナリズムと経営教育」

第1日 2007年6月29日(金)

14:00～16:00 企業見学 日本電気株式会社 玉川ルネッサンスシティ  
18:00～20:00 理事会 青学会館

第2日 6月30日(土) 統一論題

9:00～16:00 受付  
9:30～9:40 開会挨拶 (日本経営教育学会会長 小椋康宏)  
9:40～10:20 会員総会  
10:30～15:10 統一論題報告

10:30～11:20	統一論題1
報告者	谷内篤博 (文京学院大学)
報告テーマ	プロフェッショナル志向の高まりとキャリア形成
11:30～12:20	統一論題2
報告者	岩崎嘉夫 (株式会社前川製作所顧問: 前専務取締役、(株)前川総合研究所代表取締役社長)
報告テーマ	前川製作所の組織と人材育成 - 独法から1社体制への新たな展開を踏まえて
13:20～14:10	統一論題3
報告者	松尾睦 (小樽商科大学)
報告テーマ	経験からの学習: プロフェッショナルへの成長プロセス
14:20～15:10	統一論題4
報告者	角忠夫 (株式会社むさし野経営塾塾長・松陰大学大学院教授)
報告テーマ	産学連携むさし野地域経営塾の実践—中小企業向けプロフェッショナル経営者の育成法—
15:20～16:10	統一論題5
報告者	杉田あけみ (千葉経済大学短期大学部)
報告テーマ	企業におけるジェンダー平等を推進していく人材の育成
16:30～17:30	特別講演
報告者	鹿島浩之助 (日本電気株式会社取締役執行役員専務)
報告テーマ	NECの経営戦略

18:00～20:00 懇親会 会場: 青学会館

第3日 7月1日(日) パネルディスカッションおよび自由論題プログラム

9:00受付

9:30～11:10	第1セッション(A会場) 【イノベーション】	第2セッション(B会場) 【キャリア・デザイン】	第3セッション(C会場) 【教育訓練】
報告者	①奥山雅之 (東京都産業労働局) ②福田昌義 (日本大学)	①須田敏子 (青山学院大学) ②一守靖 (日本ヒューレット・パッカード株式会社人事企画・コミュニケーション本部本部長)	①逸見純昌 (松陰大学) ②井上福子 (ティファニー&カンパニージャパン)
報告テーマ	①ものづくり中小企業におけるイノベーションと人材育成 ②社会起業家とソーシャルイノベーション	①ビジネス・スクールの現場からみたキャリア・デザインの実態 ②ヒューレット・パッカードにおけるキャリア・デザインの取り組み	①日本企業における教育訓練について ②外資系企業におけるリーダーシップの育成について

## 11:20~16:00 自由論題報告

11:20~12:00	A会場	B会場	C会場
第1セッション (第1・2・3報告)	高橋公夫 (関東学院大学)	片山善行 (四国大学)	平田光弘 (星城大学)
報告テーマ	中国の近代化イデオロギーと経営思想	海外子会社のガバナンスに関する一考察	オムロン、京セラおよび松下のCSR活動と人材教育

12:50~13:30	A会場	B会場	C会場 (院生セッション)
第2セッション (第4・5・6報告)	八杉 哲 (光産業創成大学院大学)	吉村孝司 (明治大学)	藤井辰朗 (東洋大学大学院)
報告テーマ	学生による起業事例の研究 — 魔の川を越える条件	ニューロマネジメントの提起	自社株買戻しに関する一考察
13:40~14:20			
第3セッション (第7・8・9報告)	小野瀬 拓 (九州産業大学)	中村久人 (東洋大学)	岡部勝成 (広島大学大学院)
報告テーマ	ベンチャー企業の存立の意義	J R 東日本の駅ナカ・ビジネスの展開とsuicaの導入	経営意思決定に対するキャッシュ・フロー計算書の影響—福岡県における中小企業を中心にして—

14:30~15:10			
第4セッション (第10・11・12報告)	趙 偉 (中部大学)	古市承治 (福岡国税局)	シュレスタ ブパール マン (創価大学大学院)
報告テーマ	ハイブリッド型経営者の概念に関する一考察	公会計における環境会計の必要性について	企業業績におけるコーポレート・ガバナンスの影響—実証分析：日本企業の事例—
15:20~16:00			
第5セッション (第13・14報告)	研究プロジェクト報告 斎藤毅憲 (横浜市立大学)	研究プロジェクト報告 松村洋平 (立正大学)	
報告テーマ	社会人大学院に関する実態調査	経営の法的側面に関する研究	

16:00 閉会挨拶 (日本経営教育学会第55回全国研究大会実行委員長 森川信男)



## 第10回 産学交流シンポジウム開催のご案内

M B A 談 義 ～ホルダー、ボス、トレーナー～  
—MBAホルダー（経営系大学院修了者）が語る、その上司が語る、  
その教育機関が語る、「MBAとは？」「経営教育とは？」—

日時：平成19年7月21日（土）  
13:20～19:00（12:30開場）

会場：中部大学名古屋キャンパス（名古屋市中区千代田5-14-22）  
●交通：JR中央本線「鶴舞」駅名大病院口（北口）下車すぐ  
地下鉄「鶴舞」駅下車北へ約100m  
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

会費（懇親会費含む）：会員・一般：2,000円／学生：1,000円

主催：日本経営教育学会／後援：社団法人中部産業連盟

### プログラム

- 12:30～ 開場・受付開始
- 13:20～13:30 開会挨拶 日本経営教育学会会長 小椋 康宏（東洋大学）
- 13:30～14:00 基調講演「こんなMBAならいいらない  
—私がMBAを思い立った理由—」  
真塩 敏幸 氏（トヨタ自動車株式会社）
- 14:00～14:30 基調講演「企業が求める幹部社員の資質」  
多田 利行 氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）
- 14:30～15:00 基調講演「日本のビジネス・スクール  
—中京大学大学院ビジネス・イノベーション研究科の場合—」  
小川 英次 氏（名古屋大学名誉教授、中京大学前学長）
- 15:15～17:15 シンポジウム&質疑応答（司会：富山大学 水谷内 徹也）
- 17:30～19:00 名刺交換会および懇親会（司会：東海学園大学 堀田 友三郎）

### お問合せ先

愛知産業大学短期大学 草田清章（TEL:052-683-0021／e-mail:kusada@asu.ac.jp）  
※なお、詳細とお申し込み方法につきましては、別途郵送にてご案内いたします。

**平成18年度第2回九州部会報告**

梅田 勝利 (山口大学)

日本経営教育学会九州部会が、経営行動研究学会との共催で、平成19年3月17日(土)に増田卓司氏(前九州部会長)のご配慮により、福岡お茶の水医療秘書福祉専門学校で開催された。

第1報告は岩切道雄氏(日本大学大学院博士後期課程)による「行政と民間セクターとの協働」で、行政の立場から民間セクターと協働し、行政のパフォーマンスアップを図った新規モデルの作成への提言であった。第2報告では福島浅次郎氏(北九州マネジメントコンサルタンツ株式会社)が「わが国のMOT教育の現状と課題—実務家の視点を通して—」というテーマで、中小製造業の観点からMOT教育に対する要求が述べられた。岡部勝成氏(広島大学大学院)の第3報告では、「経営意思決定に対するキャッシュ・フロー計算書の影響—福岡県における中小企業を中心に—」として、福岡県内の中小企業がいかにかキャッシュ・フロー計算書を利用しているかを調査・分析し、その活用について疑問を提示したものである。最後の第4報告では、小野瀬拓氏(九州産業大学)が「ベンチャー企業存立の基本的理解」として、ベンチャー企業が存続するための外部または内部環境について分析した結果が述べられた。

以上の報告に対して、飫富順久氏(和光大学)、齋藤貞之氏(北九州市立大学)、吉岡隆彰氏(第一経済大学)などから質問があり、活発な議論が行われた。

部会終了後には懇親会が開催された。飫富前会長の挨拶、新会員の紹介などがあり、交流が深まる会となった。

**本欄～会員の最新刊著書を紹介します～**

◎谷内篤博著 『働く意味とキャリア形成』 勁草書房、2007年2月、2,310円

※会員の皆様の最新刊著書を広くご紹介して参りたいと思います。事務局まで情報をお寄せ下さい。

**編集後記**

会報第245号をお届けします。来る6月29日～7月1日に第55回全国研究大会が開催され、7月21日には第10回産学交流シンポジウムが開催されます。知的興奮漲る夏になりそうです。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

樋口弘夫・山中伸彦

発行 日本経営教育学会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4  
株式会社山城経営研究所(担当:寿)  
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988  
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp  
URL: http://www.j-keieikyoku.jp/

印刷 株式会社フジヤマ印刷 〒03-3260-3801  
E-mail: fujiyama@mx7.ttcn.ne.jp